

心の輪31R



『やさしいうそ』という資料を通して、
「障害や困難に屈しない意志」について考えました！



山形の実家から帰る途中、交通事故に遭い、重傷を負った女優の萩生田千津子（はぎうだ ちづこ）さん。一命は取り留めたものの、首の骨を折り、頸髄損傷による全身麻痺の身となり、「一生寝たきり」という宣告を受けてしまう。現実を受け入れられず、絶望的な気持ちになるが、励ますため、心配させないため、様々な思いで、萩生田さんや周りの人たちは、お互いに『やさしいうそ』をつき続けることになる。そんなある日、小説家の水上勉先生がお見舞いにやってくる。そこで水上先生に言われたことをきっかけに、『語り部』として再び舞台に上がることを決意する。この話の最後に萩生田さんは、「私は今、生きることが大好きです。」と述べている。萩生田さんは、なぜ、ここまで強くあることができたのだろうか？どんな障害や困難にぶつかっても、充実した生き方を送るために大切なものとは？

嫌なことがあっても、前向きに考えることで、嫌だったことが良い方向に変わるかもしれないから、嫌なことがあっても、気持ちを切り換えて生きていきたい。

僕は、ポジティブな考えだけが良いわけではないと思う。ネガティブな考えとポジティブな考えが両方あるから、人は前向きに生きていけるのだと考える。

私が、もし、千津子さんの立場だったら、自分に残されたもので、諦めずに生きることができていなかったかもしれません。でも、今回の話を聞いて、千津子さんみたいに前向きに生きられるために、まずは『諦めない』ということが一番大事ではないかと思いました。



理想通りにいかない現実もある

目標の実現に向けた道のりは決して平坦ではない。
例えば、
勉強にしても、スポーツにしても、芸術にしても
自分なりに努力したつもりでも
うまくいかないこともある。
各分野の第一線で活躍する人たちも
同じように苦い経験や挫折を味わいながら
それを乗り越えてきた。
優雅に泳ぐ白鳥は、
水面下で懸命に水をかいているのだ。

文部科学省資料
『心のノート』P.18より引用

この時間と同じように、もし、自分の足が動かなくなって寝たきりだったとしたら、私は後悔すると思います。しかし、それでも『生きる喜び』というものがどこかに存在するというのを、この時間で学びました。今生きることにも実感を持ち、今生きることを好きになるようにするのが、『本当の生き方』なのではないかと思いました。

例えば、悪いことが起こった時、ポジティブというのは、「それは良いことだったんだ」という微少な確率を追い求めることだと思います。そういう考え方ができると楽しく生きられそうだと思います。

私はこの授業で、どんな状況でも、ポジティブに物事を考え、前向きに生きたいと思うことが大切だと思いました。私もこれからは、そんな信念を持ちたいと思いました。

前向きに生きるためには、どんなに難しいと分かっているけど、その道を歩き続けたいと思う。その歩みを止めないためには、自分の唯一の良いところを活かし、失敗したものは悔やまず、失敗は失敗と考えれば良いと思う。